



東北支部年報

第 28号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

— 理念が支える伝統と東北支部の課題 —

東北支部長

倉田 光春

日本建築学会は、人を育て、互いに知的文化人を育てる団体であり、社会の知的基盤を支える学術団体であります。その意味で、一巡して7年目となる東北支部大会「みちのくの風」は、今や受け継ぎ伝統とすべき大切な主要行事であります。毎年宮城県を除いた東北5県を順繰り回って開催されるため、年に一度数多くの支部会員が一堂に会して、支部研究報告会(含招待講演)を行い、併せて東北建築賞表彰式・受賞記念講演会とその展示会などを行うわけですが、6月7,8日に開催される「みちのくの風2008 青森」では、新しく見学会を企画しております。

また一方で、本会の社会的役割の重要性が増すにつれ、幅広く社会貢献することが求められると同時に、数多くの建設業界の方々、設計実務者などが加入し、目に見えるかたちで社会的ニーズに対応することが求められています。本会は中期計画の中で、学術基盤の整備、知的資産の創出、会員サービスの充実、社会貢献、国際化への貢献の5つの活動方針を掲げ、ここ数年の事業計画・予算上の基本方針は「①健全財政に維持」「②学術法人としての諸活動の活性化」「③公益社団法人格の取得」であります。①は当然であり、②は多様な社会的要請に応える

ためのものであり、また、不特定多数の会員に対して幅広くサービスすることが、また、社会的要請に応じたその貢献が求められる中で、特に、③については、組織的な対応が急がれ検討に入っています。公益事業比率0.5以上はその取得条件の一つであり、東北支部のその比率は過去6年間で0.41を超えることなく2005年度は0.36であります。管理費を押さえその比率を上げるべく総務会、常議員会は全てテレビ会議かネット会議としています。

支部に於いても学術基盤の整備とその活性化について議論すべきであります。特に、若手はもちろん数多くの支部会員の参加を促すためにも、研究委員会の各部会の組織構成を見直し、活動内容とその公開方法について検討する必要があります。幅広く数多くの支部会員から協力頂けるような研究委員会とするため、その委員とは別に部会会員制度を設けるなどその会員を増やし、そのことにより開かれた透明性のある組織となれば幸いです。また、建築デザイン発表会については、建築デザイン教育部会を有していることでもあり、大会に倣って「みちのくの風」支部研究報告会に併せた具体化が急務であると考えています。

もくじ

○ 巻頭言	○ 第18回東北建築作品発表会の報告	○ 支所だより
—理念が支える伝統と東北支部の課題—	○ 第27回東北建築賞表彰式及び展示会報告	○ 常議員会から
○ 企画記事	○ 「作品選集2008」東北支部審査報告	○ 支部役員名簿
○ 建築文化週間事業報告	○ 2007年度設計競技東北支部審査報告	○ 2007年度事業報告
○ 第28回東北建築賞(作品賞)選考報告	○ 2007年度東北支部研究報告	○ 2008年度事業計画(案)
○ 第28回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告	○ 2007年度日本建築学会東北支部総会議事録	○ 法人・賛助会員
	○ 研究部会活動報告	

「みちのくの風 2007 岩手」開催報告

常議員 大沼 正昭

今回で6回目をとする日本建築学会東北支部による「みちのくの風」は、2007年6月9日～10日にかけて、岩手県盛岡市の岩手県民情報交流センター「アイーナ」において開かれた。会場はJR盛岡駅西口広場に隣接した利便性の良い快適な施設で、例年通り活発な活動が行われた。

研究活動としては、第70回目となる東北支部研究報告会が開催され、発表題数は119題、発表会参加者数は延べ250名を数えた。発表論文は日本建築学会東北支部研究報告集第70号(二分冊)として刊行された。また、あわせて、6月10日の午前最後のセッションで、各分野で最先端の研究を行っている研究者による招待講演が行われた。計画・環境部門では根上彰生教授(日本大学)により「中国新疆ウイグル自治区の伝統的景観について」という題目で、構造・材料部門では石丸辰治教授(日本大学)により「免震と制震の新しい方向」という題目で、講演がなされた。参加者はそれぞれ50名以上で熱心な聴講と講演後の質疑も活発で盛況であった。

期間中に会場内で開催した、第27回東北建築賞受賞作品パネル展示会、JIA 岩手作品展、東北支部法人会員技術報告・建築作品展示会も、多くの見学者が訪れた。

「みちのくの風」の最大の特徴である市民との交流企画として、6月9日に地方におけるまちづくりの問題を考えるパネルディスカッションを行った。「地域固有の文化、歴史を生かしたまちづくり」という題目で、司会は長谷川兼一准教授(秋田県立大学)、コーディネータは三宅諭講師(岩手大学)、パネリストに北沢猛教授(東京大学)、広田純一教授(岩手大学)、渡辺敏男氏((有)盛岡設計同人代表取締役)を迎え、地域文化と歴史を生かしたまちづくりに取り組む事例と多くの問題点や合意形成の難しさなどが紹介され、熱心な議論に沸いた。

パネルディスカッションに引き続き、約60名が参加して、第27回東北建築賞表彰式が行われた。受賞作品は作品賞2点(しもきたドーム、横手清稜学院)、作品奨励賞2点(山のアトリエ、なかじま幼稚園)でそれぞれ受賞者の記念講演(各作品15分)が行われた。その後、場所をホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングに移し、受賞者と講演者を囲んで研究発表者、地元関係団体、支所、支部関係者ら35名が懇親を深めた。

最後に本年度の「みちのくの風」の開催に際してご尽力いただいた関係各位に謝意を表し、報告を締めくくる。

山形支所では、例年10月に「親と子の建築講座」として三次元CAD教室とレトロ館見学会を開催しております。10月は住生活月間ということもあり、「2007 国土交通省住生活月間協賛イベント」と「建築文化週間 2007」の冠名となりました。小稿にて当日の状況を報告します。

コンピューターによる住宅モデル作成

平成19年10月14日(日)に県立産業技術短大において「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。今年度は、告知のために、A5のチラシを4000枚作成し、山形市内の小中学校・建築関係機関に発送する一方、特に会場近隣の小学校には直接全児童分のチラシを持参し、PRに努めました。結果として、即座に9家族の申し込みがありました。

残念ながら当日は、欠席者もいましたが、親子6家族(大人7名と小中学生8名)が参加し、講師の県立産業技術短大建築環境システム科の江川嘉幸助教授と4名の短大生アシスタントから、建築3次元CADの操作法を受講し、5時間で自分の考えた小住宅の内・外観パースやウォークスルーアニメーションを作成しました。保護者の方には自らパソコンを操作する方もあり、親子の間で活発な意見交換もありました。

最近の子供たちにとっては、ゲームやインターネットで身近な存在である3次元CGが建築分野でも活用されていることやそれを実際に操作することで、建築デザインに関心を抱いてもらう機会となったと考えます。各参加者の作成したパースやウォークスルーアニメーションの電子データはCD-Rで後日配布し、自宅で自分の作品を親子で繰り返し楽しんでもらうことで、さらに建築に興味をもってもらえたと思っております。



当日の実習風景



子供たちの作品

やまがた歴史たてもものめぐり

平成19年10月28日(日)に山形市の十日町・諏訪町・香澄町において、江戸時代から昭和初期に建てられた建築の見学会を開催しました。

これまで見学対象としてきた市内の旅籠町のいくつかの古い洋館が街路事業の進展に伴い、惜しまれながらも除却されてしまったため、6回目の今回は、東北工芸大の学生たちが中心になって活動している「ヤマガタ蔵プロジェクト」の成果を中心に見学しました。こちらもチラシを見

学エリアの小学校に全児童分配布しましたが、結果として親子2家族(大人2名と小学生3名)にとどまりました。古い蔵では、小学生の関心は低いのかと事務局としてはいささか失望しましたが、開催を知った市内外の一般市民から3名の参加申し込みがありました。(当日、新聞記者1名が午前中のみ取材に同行)

「山形歴史たてももの研究会」の小林和彦事務局長等の案内により、西村写真館(大正10年建築)・史蹟「なかたち石」・3件の蔵プロジェクト(「蔵 だいます」・「蔵 オビハチ」・「蔵 おのや」)を見学しました。参加者からは、「前から入って見たかった古い蔵に入ることができた」とか「気づかなかった魅力的な建物があつた」等の感想がありました。子供達にとっては普段は縁のない蔵に入る機会となり、大人の参加者にとっても市内の歴史的建築物の存在を再認識し、それらの保存・活用に対する意識を持つ契機となったと思います。



十日町周辺



蔵 おのや



蔵 だいます

第28回 東北建築賞(作品賞) 選考報告

選考委員長 相羽 康郎

第28回 東北建築賞〔作品賞〕選考報告
選考委員長 相羽康郎

1. 応募作品数

- ・小規模建築部門 : 11点
- ・一般建築部門 : 14点 (うち1点審査辞退)
- 計 : 25点

2. 選考経過

(1)事前打ち合わせ(2007年9月13日, 於: 日本建築学会

東北支部会議室)

応募作品の数とその内訳を確認した上、東北建築作品発表会の運営方法および東北建築賞〔作品賞〕の選考基準などについて事前打ち合わせ会議を行った。

(2)東北建築作品発表会(2007年9月29日, 於: 仙台市福祉プラザ ふれあいホール)

第1次審査(同日, 於: 仙台市福祉プラザ 10階第4会議室)

第18回東北建築作品発表会において応募24作品の発表が行われた。11分という限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査に入った。今回は発表会の時点で、選考基準である、1)企画力、2)技術力、3)地域への貢献・文化度に対して10点満点で採点するようにした。選考の手順は、まず各審査委員の採点結果を集計し各作品の合計を確認した上で、具体的な議論に入った。また、現地審査の対象数を決めるために、小規模作品部門4点、一般作品部門8点以上とすることで合意が得られた。

このような手順を経て、小規模建築物部門では4作品、一般建築物部門では9作品が選定された。また、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決めた。その後、現地において確認すべき点を検討し、作品の管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整を行うこととした。

(3)現地審査

宮城県外の8作品に対しては11月12日~12月4日の短期間に実施された。仙台市内の作品のうち5作品については1月26日に、全審査委員参加のもとで実施された。

(4)第2次審査(2008年1月26日, 於: 日本建築学会東北支部会議室)

第2次審査にあたり、選考手順に関する協議を行い、現地審査を行った作品を段階的に絞り込みながら選定することが確認された。その後、現地審査を行った審査員が1作品10分以内でそれぞれ説明し、質疑を行うことで進められた。今回、小規模部門5作品、一般建築部門9作品が該当する。なお、本審査委員会直前に、出席者全員で仙台市内の5作品について現地審査を実施したので、これらについては共通認識を共有するために議論すべき事項があれば取り上げることとした。全ての作品の説明が終了した後、作品賞ならびに奨励賞に値すると思われる推薦作品を、投票用紙に記載し投票した。その結果を踏まえて、さらにさまざまな見地から多面的な意見が出された。その結果、作品賞として一般建築物部門から4点、奨励賞として、小規模

建築物部門から1点を選定した。

3. 選考結果

作品賞 東北工業大学香澄町1号館

【所在地】宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1

【設計監理】東北工業大学1号館建設委員会＋
佐藤総合計画

【施主】学校法人 東北工業大学

【施工】戸田・阿部和特定建設工事共同企業体

作品賞 花壇自動車整備大学校7号館・5号館

【所在地】宮城県仙台市青葉区花壇8-1

【設計監理】株式会社竹中工務店

【施主】財団法人角川学園

【施工】(5号館) 佐々良建設株式会社
(7号館) 株式会社竹中工務店

作品賞 こもれびの降る丘 遊楽館

【所在地】宮城県石巻市北村字前山15-1

【設計監理】株式会社 久米設計

【施主】河南町(現、石巻市)

【施工】鹿島建設 他

作品賞 東北学院中学・高等学校

【所在地】宮城県仙台市宮城野区小鶴高野123番1

【設計監理】株式会社日建設計

【施主】学校法人東北学院

【施工】前田建設工業・銭高組・日本国土開発・橋本・
奥田建設JV

作品奨励賞 ギャラリー絵遊と蔵ダイヤモンド

【所在地】山形県山形市諏訪町1-4-10

【設計監理】東北芸術工科大学建築・環境デザイン科
竹内研究室

【施主】駒谷 修二

【施工】株式会社 田中工務店

4. 講評

今回の応募作品数は、合計で25と前年度の22を若干上回る程度で大きな変化はない。前年度の応募数とその前年を大きく下回っており、十分な応募点数とはいえない現状に鑑みて、応募する魅力を高めるための方法が依然必要とされている。応募作品のうち小規模建築物部門は11点と昨年度より倍増したが、一般建築物部門は若干減少した。

小規模建築物部門の現地審査4作品から、意匠デザインで優れていても使用状況や維持管理状態で大きな困難があったり、街並み・まちづくりへの貢献は認められても空間意匠デザインで高い評価が得られなかったなどの理由で、作品奨励賞が1作品選定されるにとどまった。

一般建築物部門の現地審査9作品から4作品が作品賞に選定された。昨年に比べて点数が多いが、企画、技術の完成度のレベルが揃っていたためである。4作品とも大手の設計組織が関与していることと無関係ではないと考えられる。なお、企画力、技術力に優れ、地域への貢献が使用状況の活かさからも伺える1作品がやや群を抜いていた。

本年度の審査過程でいくつかの重要な議論があった。また実施可能なものは本年度中に実施された。

昨年度からの継続で、まず作品奨励賞の扱いがあった。作品賞に準ずるということではなく、デザインの意匠の完成度や地域文化性からの観点に加えて、リノベーションやまちづくりなどの観点も踏まえ、特筆すべき特徴を優先して顕彰する方向を打ち出し、内規の変更を常議員会に諮った。

応募の魅力を高める観点からも、すべての応募作品に講評を行うことを原則とし実施した。過去にも審査委員会の独自判断で実施されたことはあったが、本年度、速やかな講評の機会提供を内規に定められないか常議員会に諮った。本年度の第1次審査後、現地審査作品の発表と同時期に、選にもれた作品の応募者への講評送付が行われ、第2次審査の作品賞公表後速やかに、第2次審査にもれた作品の個別講評が送付される。

規約などに明記されているわけではないものの、東北建築賞は、建築完成後十分使用されている状態での評価を旨とすると伝え聞いており、確かに現地審査のための書類は、施主と使用管理者が対応する書式となっている。これに対し設計者が説明して良い場合もあるとの意見が応募者側の立場から提起され、この点を常議員会に諮った。過去に建設後使用実績期間の条件が短縮された経緯があった。他の顕彰制度と比較しながら、使用状態、施主・使用者の観点重視という東北建築賞の位置づけを再確認し、設計者の現地説明要請とのバランスなどについて、十分な検討をお願いしたい。

なお法令順守に関する対応が提起された。作品賞に選定された作品のうち、応募図面に駐車場とある場所が現地審査で、異なる機能と判明したものがあった。応募者から確認申請手続きの関係書類を提出頂き、書類確認後賞を確定した。

本年度の審査において、応募作品すべてに講評を実施したことは、健全な建築文化の発展にとって意義のあることと考えている。作品賞に選ばれなかった作品のなかには、ある観点から高い評価を受ける内容が存在する。講評送付により評価の高かった内容も伝えられると同時に、選ばれなかった理由もまた明記され、審査側の観点も理解していただける。東北建築賞の特徴のひとつとして、今後の展開を期待したい。

その他の特徴も含めて東北建築賞の位置づけを明確にし、応募する側に理解されるようこれを公表して、審査に反映させていくことを今後ともお願いしたい。

以下に入賞作品の個別の講評を公表している。入賞を逃した作品に対する講評も同様であるが、個別の講評は、現

地審査に当たった選考委員が稿を起こしたものを、選考委員長がまとめたものである。

(作品賞)

◇東北工業大学 香澄町一号館

本作品は、東北工業大学のキャンパスの新しい核となる施設と位置づけられる。学生の情報交換や交流の場「tohtec LOUNGE」、学生窓口を集約した「学生サポートオフィス」、上部に教室群からなる教室棟と、大学本部としての管理棟をL型に配置している。

教室棟は、北西側の市道に沿う配置とし、吹き抜けやギャラリーを設けた透明感のある構成は、内外の風景の連続性を昂めている。管理棟は、3、4階を執務空間とし、1、2階は二層吹抜のピロティとしてキャンパスの東西ゾーンをつないでいる。

これらの配置により、新しく作られた中央広場、緑の広場、階段広場は、従来の混み入った施設群の鬱陶しさを解消し、さらに陽溜まりに溢れ、広々と内外に開かれたキャンパスの雰囲気を作り出すことに成功している。このように本作品はオープンスペースのデザインからディテールに至る迄、努力し工夫した成果を認めることができ、作品賞にふさわしい。

作品賞 花壇自動車整備大学校7号館・5号館

広瀬川に向けて大きな開口部を設けた5号館は、暗く閉鎖的になりがちな実習室の印象を一変させるような明るく開放的な空間が、学生達にとって素晴らしい学習環境を提供している。フラットスラブと剛強な耐震壁により空間を囲った構造体は、開口部分は鋼管のみによりスラブを支持する独特の構造により、川に開かれた空間を有効に成り立たせている。

敷地の傾斜を利用して、実習室と学生ホールをうまく組み合わせ教室も併設する7号館は、広々と十分なスペースを提供する学生ホールが圧巻で、キャンパス側の外部大階段に向け、ほぼすべてを開け放つことが可能な大開口が気持ちよく、穏やかな季節に学生達がくつろぐ姿を想像させる。

コンセプトの「川に開く」については十分な成功を収めたが、「街に開く」に関しては、既存校舎に近接して新築された質の高い建物の活かし方について、既存の建物や校舎との間の空間整備など、今後とも十分な配慮を期待したい。大規模校では決してなし得ない、この規模でこそ成功した完成度の高い建築であり、作品賞に値する。

作品賞 こもれびの降る丘 遊楽館

地域の施設が、住民のあらゆる要望を、とりまとめ切れない結果をよくみかけるが、この施設は新しい視点での解決案を提示し、住民からも高い評価を得ていると考えられ

る。アリーナ、コンサートホール、生涯学習施設、プール等本来機能的にも形態上も分離が必要になるものであるが、それぞれの機能毎に確実なディテールで造り上げ、利用層の違い、時間帯の異なるものを、こもれび降る薄い淡い布をかぶせた様な、視覚的にも優しいパブリックスペースとした建築設計の技能は、高いレベルであると評価する。現在利用率は高く、地域外からの使用者もあり、初期の目的は達成されていると考える。

一方、こもれび降る、どこまでも繋がる大空間は、公共建築の維持管理の面で問題点を抱えかねず、長期的見通しの中で部分的修正も予測した運営を、発注者・設計者が協力して考えていってほしい。作品賞に値する素晴らしい建築であり、今後とも初期の思想が継承されるよう期待し、祈念する。

作品賞 東北学院中学・高等学校

東北学院の移転に伴い、中学と高校を一体化しつつ、大きな礼拝堂を生活の中心として組み込む新築のプロジェクトである。まわりはコンビニすらまだない風景であり、デザインにおいて参照すべき環境や文脈もなく、都市の日常から切り離された厳格な修道院といった趣きである。実際、外に開くというよりも、中庭に面する回廊のように空間が展開しており、キリスト教系の学校という性格が感じられる。

ここでは朝に全校生徒が中央の礼拝堂に集まり、両サイドに位置する中学と高校が1階の特別教室や体育館を共有する実験的なプログラムを持つ。こうした運営の形式を成立させるための、システムティックな平面計画と断面構成が評価できる。

基本的には、壮かさや規律を特徴とする空間だが、2階レベルの屋上テラスと図書室、そして1階の中庭と視線が行き交うエリアは、休み時間にアクティビティが生まれると予想される。まとめにくい巨大なスケールにもかかわらず、建築としての完成度が全体的に高く、作品賞に値する。

作品奨励賞 ギャラリー絵遊と蔵ダイヤモンド

「ギャラリー絵遊と蔵ダイヤモンド」は、山形市内に残る蔵の利活用を目的とした「ヤマガタ蔵プロジェクト」の一環として計画されており、既存の蔵と新設のギャラリーからなる。既存の蔵は保存を基本路線に最小限の改修が施されており、展示空間として利用されている。新設ギャラリーと併せて利用率も高く、市民に親しまれる建築であることは疑いない。山形の表情の一つである蔵を安易に取り毀すことなく、また、無為に保存するのではなく新設ギャラリーと渡り廊下でつなぎ、風景としての連続性も演出しつつ、活用に成功している点は高く評価できる。また「ヤマガタ蔵プロジェクト」は市民だけでなく全国的な知名度もあり、東北発の活動としても評価に値する。

その一方で新設ギャラリー単体は、特に挑戦的な試みが

技術や意匠の面で認められず、単純な箱という印象を超えるものではない。必ずしも特筆に値する建築作品とは言い難いため、今後のプロジェクトの発展への期待も込めて、作品奨励賞とすることがふさわしい。

第28回東北建築賞作品賞選考委員会委員会

委員長 ・相羽 康郎 東北芸術工科大学
委員 ・浅里 和茂 日本大学
・樋口 雅之 東北電力株式会社
・西脇 智哉 山形大学
・五十嵐太郎 東北大学
・鈴木 孝男 宮城大学
・永井 康雄 東北大学
・長谷川兼一 秋田県立大学
・針生 承一 (株)針生承一建築研究所
・吉田 イサム 吉田イサムとアーク・ハイ

第28回東北建築賞（研究奨励賞）選考報告

選考委員長 源栄 正人

1. 応募状況

材料・施工部会、歴史意匠部会、建築計画部会からそれぞれ一件ずつ、3件の応募があり、2月5日（火）に9名の審査委員と委任状の6名による予備選考、および選考が行なわれた。

2. 予備選考

内規に従い、推薦された論文を候補論文として残すか判断するために、材料・施工部会、歴史意匠部会、建築計画部会に分かれて予備審査が行われた。その結果、建築計画部会からの推薦論文は、著者が2名であり、論文執筆に関わった役割分担が不明であること、取り組みは実践的であるが研究としての要素があまり見られないこと、また、論文としてのボリュームに物足りなさを感じざるを得ず、報告書的な内容に留まっているとの理由から審査候補論文としないこととした。

材料・施工部会からの候補論文と歴史意匠部会からの推薦論文を予備審査の結果として選考委員会に推薦するとした。

3. 本選考

材料・施工部会からの推薦論文は、簡易試験法の提案は意義あることだが、既に提案されている試験法との整合性や有用性についての視点が欠けており、その結果、論文で提案されている試験法の適用性が不明確となっている。従って、東北建築賞研究奨励賞に値するとは認められず、今回は見送ることとした。

歴史意匠部会からの推薦論文は、費氏の「近世建築技術書にみられる神社本殿の設計方法に関する研究」である。史実に基づいた実証的研究であり、膨大な史料をもとに丹

念に作業が行われている。得られた知見も意義深く、価値の高い論文であると判断し、東北建築賞研究奨励賞に値することが全会一致で確認された。

4. 選考結果

研究奨励賞部門 費 迎慶

(フェイ インチン)

【所属】 東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻 建築史研究室

【研究題目】 近世建築技術書にみられる神社
本殿の設計方法に関する研究

【研究分野】 建築史分野

第28回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

委員長 ・源栄 正人 東北大学
委員 ・毛呂 眞 八戸工業大学
・伊藤 憲雄 宮城工業高等専門学校
・出村 克宣 日本大学
・山田 大彦 東北工業大学
・笠松富二夫 宮城工業高等専門学校
・松井 壽則 日本大学
・坂口 大洋 東北大学
・石坂 公一 東北大学
・狩野 勝重 日本大学
・高橋 恒夫 東北工業大学
・月舘 敏栄 八戸工業大学
・石川 善美 東北工業大学
・岡田 誠之 東北文化学園大学

第18回東北建築作品発表会報告

常議員（社会文化） 長谷川 兼一

第18回東北建築作品発表会は9月29日に仙台市福祉プラザ ふれあいホールにて行われた。発表作品は東北各地より小規模部門11作品、一般建築部門13作品(1作品辞退)の合計24作品の発表が行われた。昨年度と比べると小規模部門の発表点数が増加しているが、一般建築部門で減少した結果、総数では大差がなかった。発表会は支部長挨拶、相羽選考委員長による発表にあたっての注意の後、設計を担当した各応募者の説明、質疑応答により進行した。この作品発表会は第28回東北建築賞の一次審査を兼ねており、発表のプレゼンテーションも審査の対象とするため各審査員からは活発な質問がなされ、議論が交わされた。会場には審査委員以外にも一般の参加者や大学生が参加したが、例年と異なる会場であったこともあり、やや空席が目立つ状況であった。今後は広報を積極的に行う必要がある。

本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、(社)建築士事務所協会(東北各県)、(社)建築士会(東北各県)、(社)東北建設業協会連合会のご後援をいただいていることを報告に加えさせていただきます。

第27回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員(社会文化) 長谷川 兼一

第27回東北建築賞表彰式は「みちのくの風2007 岩手」の初日、6月9日にアイーナいわて県民情報交流センターにて行われた。東北建築賞を受賞した作品は作品賞2点、作品奨励賞1点の合計3点である。表彰式は作品賞、作品奨励賞について小林審査委員長より選考経過報告と講評が行われた。続けて各受賞者各者には倉田支部長から賞状、賞杯が贈られた。受賞作品についてはスライドにより紹介が行われた。また、受賞作品のパネル展示会は6月9日、10日の2日間、アイーナ展示室にて行われた。その後、東北建築作品展として東北6県の支所などで巡回展示された。本表彰式、講演会、パネル展示会は、ご講演の各位、委員長はじめ選考委員、岩手支所及び支部の関係者・スタッフ、受賞者並びに作品応募者の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

「作品選集2008」東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 武澤 秀一

第1次東北支部選考会が平成19年6月30日、支部会議室にて開催された(出席委員:武澤秀一、茂木聡、梅津光男、若松信行、松井壽則、竹内昌義、1名欠席)。

今年度の支部応募作品数は前年度の19に比べ半減し、9であった。提出された選考資料に基づき、まず現地審査の対象となる作品を決定した。投票および協議の結果、現地審査の対象として以下の8作品を選定した。

フルキャストスタジアム宮城
福島県農業総合センター
秋田県立大館国際情報学院中学校・高等学校
パスカル山形(株)山形工場
秋田県立由利工業高等学校
明治安田生命盛岡支社遠野営業所
アイーナ いわて県民情報交流センター
酒田市公益研修センター多目的ホール

対象作品が東北地区の広大な地域に点在するため現地審査の計画策定は困難を極めたが検討の結果、北ルート(遠野、盛岡、大館)、日本海ルート(東根、酒田、由利本荘)、南ルート(郡山、仙台)の3ルートを設定し、実施した。

第2次東北支部選考会が平成19年8月3日、支部会議室にて開催された(出席委員:武澤秀一、茂木聡、若松信行、松井壽則、竹内昌義、小野田泰明、1名欠席)。

第2次選考においては、担当した委員からそれぞれ現地審査の報告がなされ、これを基に真摯な意見交換がなされた。その結果、現地審査を行った8作品のうち5作品をA、B、Sランクに分類し支部推薦作品に選定した。Aランクは設計密度の高さと地域環境への適合性などが総合的に評価された

ものであり、Bランクはややこれに及ばなかったものである。Sランクには、評価が分かれるものの視座を特定すれば高評価が得られると判断されたものが選定された。

Aランク:明治安田生命盛岡支社遠野営業所
酒田市公益研修センター多目的ホール

Bランク:福島県農業総合センター
アイーナ いわて県民情報交流センター

Sランク:フルキャストスタジアム宮城

従来、東北支部選考においては、現地審査の際には作品の設計者は立ち会わないことを原則としてきており、今年度もこの原則で臨んだ。ところが本部における選考委員会の席上、この原則を以て現地審査を行っているのは東北支部のみであることが判明した。それぞれのやり方には長短が認められようが、全国における審査の整合性から、当支部における現地審査の原則を見直すことが求められている。

2007年度日本建築学会設計競技東北支部

審査報告

審査委員長 五十嵐 太郎

今年のテーマは、「人口減少時代のマイタウンの再生」である。東北支部では、17の応募作が集まり、平成19年7月12日、日本建築学会東北支部会議室において選考会が行われた。出席者は、五十嵐太郎(東北大)、氏家清一(氏家建築設計事務所)、関口重樹(東北歴史博物館)、大沼正寛(東北文化学園大)の四名の専攻委員である。ただし、委任欠席の厳爽(宮城大)からも事前に評価は提出された。まず最初に委員の互選により、専攻委員長として五十嵐委員、議事録作成者として大沼委員が選ばれた。

続いて、委任者を含めた5名がそれぞれ5点の作品を推薦した。その結果、6点の作品が3表以上の得票を得る。出席者4名が討議を行い、支部番号7「風景ノムコウ」と支部番号8「衣替えする建築」はやや難点があることから、見送りとなった。最終的には、団地再生を扱う1番「廻」、水路を活用する2番「water scape」、さまざまな装置を提案する10番「テラオカ・ガジュツ」、海辺の空き家に注目した15番「asyle」を上位作品として全国審査に選出した。全体としては真面目だが、こじんまりとした案が多く、全国審査で評価されるには、もっと大胆かつ密度の高い作品の登場が望まれる。

2007年度東北支部研究報告会報告

常議員(学術教育) 西脇 智哉

2007年6月9日(土)、10日(日)の2日間にわたり、第70回東北支部研究報告会「みちのくの風2007岩手」が開催された。いわて県民情報交流センター(愛称:アイーナ)を会場に、発表題数119題の研究発表が行われた。昨年度の発表題数である124題からは若干応募総数が減少した。内訳は、環境30題、計画43題、材料施工13題、構造33題である。発表方式は例年通り、発表7分、質疑応答3分の計10分であった。これらの発表論文は、「日本建築学会東北支部研究報

告集第70号（計画系・構造系の2分冊）」として発行されている。

通常の研究報告の他、1日目には「地域固有の文化、歴史を生かしたまちづくり」と題したパネルディスカッションが、コーディネータに久木田禎一氏（NPO法人ソーシャルデザインサポート理事長）、パネリストに北沢猛氏（東京大学教授）、広田純一氏（岩手大学農学部教授）、渡辺敏男氏（有盛岡設計同人代表取締役）を招いて実施された。2日目には、計画・環境部門では根上彰生氏（日本大学教授）、構造・材料部門では石丸辰治氏（日本大学教授）による招待講演が行われた。いずれの企画も盛況のうちに無事終了することができ、関係各位には深く感謝申し上げます。

2007年度日本建築学会東北支部総会議事録

常議員（総務企画）大野 晋

日時：2007年5月12日（土） 16:30より

場所：情報産業プラザセミナーホール(2)A

出席者：倉田光春支部長以下75名（委任状含む）

資料：

資料No.1：日本建築学会東北支部年報27号

資料No.2：2006年度日本建築学会東北支部財産目録

2006年度日本建築学会東北支部収支決算書
会計監査報告書

2007年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）

山田寛次常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者35名、委任状40通、合計75名の確認があり、東北支部会員1,239名の1/30（41名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

倉田光春支部長による挨拶があった。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名者として、佐藤健氏及び鈴木博司氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、倉田光春支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2006年度事業及び会計に関する件

1) 2006年度事業

土方吉雄常議員より、資料No.1の支部年報19及び20ページの「2006年度事業報告」にもとづき、2006年度事業内容が報告された。

2) 2006年度収支決算

小澤成昭常議員より、資料No.2の「2006年度日本

建築学会東北支部財産目録」及び「2006年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき、2006年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

八巻正信支部監事より、資料No.2の会計監査報告書の通り、2006年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

2006年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 2007年度事業及び会計に関する件

1) 2007年度事業計画（案）

土方吉雄常議員より、資料No.1の支部年報21及び22ページの「2007年度事業計画(案)」にもとづき、2007年度事業計画が説明された。

2) 2007年度収支予算（案）

横山直樹常議員より、資料No.2の「2007年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）」が説明された。

2007年度事業計画（案）及び収支予算（案）について審議した結果、特別な問題指摘もなく、承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2007年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長 西野 敏信

今年度の研究テーマは、「災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究」であった。近々、宮城県沖で大規模地震が発生する確率は益々高くなっているものと思われる。歴史的建造物についても早急な地震対策が必要になると思われるが、その性質上一般住宅やオフィスビルと同様に扱うことは出来ず、何の対策も取られていないのが現状である。その裏には、何百年も災害に耐え抜いてきた建物だから今更大きく壊れることは無いだろうと言う期待と人命に直接与える影響は少ないだろうと言う目論見がある。従って、歴史的建造物が地震被害を受けた時に、部会として出来ることは歴史的建造物の現状を出来るだけ詳細に記録しておき、被害の状況を顕かにすると共に速やかに復旧出来るような資料を準備して置く事であると考えている。歴史的建造物の数は文化財指定の建造物だけでも国指定から市町村指定まで含めると膨大な数になり、文化財指定建造物だからと言って必ずしも資料が揃っているとは言えない。まずは資料を充実させることから始め、県毎に集約してデータベースを作成、それをどの様に管理・活用できるか検討中である。

尚、今年度は上記テーマに添って2回の部会と2つの行事を行なった。

1、見学会「出羽三山周辺の歴史的建造物」

日時：2007年10月27日（土）8：00～19：00

場所：正善院黄金堂、羽黒山五重塔、齋館、三社合祭殿、鐘楼、岩根沢三山神社本堂

2、研究会「文化財建造物保護の現状と課題」

日時：2008年3月22日

場所：東北工業大学一番町ロビー4Fホール

講師：宮城県文化財課 白崎恵介氏

建築計画部会

部会長 石井 敏

今年度は、北海道支部との合同企画の開催が実現した。支部活動の幅を広げる一つの試みでもある。以下は、企画の中心メンバーである石垣文氏からの報告である。

建築計画の研究と実践の乖離が指摘される昨今だが、両者を橋渡しする試みとして、日本建築学会東北支部建築計画部会が北海道支部建築計画専門委員会と共同主催する「児童福祉・建築学際シンポジウム+ 藤本壮介設計バウムハウス見学会 空間から考えるこれからの児童養護系施設」が、北海道大学の野口孝博先生(故人)のご尽力もあり、2007年10月20日北海道伊達市にて開催され、百名近い参加者に恵まれた。

児童虐待やいじめなどが取りざたされるなか、心理・生活の両面から社会適応困難な児童を支援する情緒障害児短期治療施設(以下、情短施設)が注目されている。2006年、北海道に開設されたバウムハウスは、藤本壮介氏(藤本壮介建築設計事務所)が情短施設における建築計画研究を解釈して空間構成が提案され、空間や支援のあり方など興味深いテーマが込められている。ここを舞台に福祉から建築にまたがる視点で児童の生活環境の議論を深めることが狙いであった。当日はまず、藤本氏や施設職員からの説明を受けながらの見学会と藤本氏への質疑応答が行われた。続くシンポジウムは門谷眞一郎氏(北海道東海大学)の挨拶で始められ、石垣文(東北大学)の「養護系施設の現状：生活と治療と空間」、宮地勉彦氏(バウムハウス)の「バウムハウスの試み」、森傑氏(北海道大学)の「児童の居場所 福祉とコミュニティ」と題する講演が行われた。その後、司会の小野田泰明氏(東北大学)や会場からの質疑応答が行われ、堀雅弘氏(ウエルメディックプランニング)による評言と設楽雅代氏(山の上こどもクリニック)の挨拶で閉会された。企画を通じて北海道と東北地区の学生交流も図られつつあり、今後の継続も期待される催しとなった。(写真は見学会で解説をする藤本氏)



地方計画部会

部会長 増田 聡

宮城県沖地震の再来が迫る中、その事前対応・事後対策の両面で、コミュニティ(町内会や自主防災組織)自らが地域防災・減災のための活動計画をたて、その着実な実施を目指すことが求められています。しかし、自主防災組織の組織率は上がりつつあるものの、実際に効果的な活動に着手したケースはごく僅かしかありません。

そこで地方計画部会では、本年度の本部研究補助費も得て、「Web-GIS等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化」をテーマに研究事業を実施しました。文科省防災研究成果事業で構築した「地域防災力評価システム^{*1}」を活用して、町内会アンケートによるコミュニティ防災力の把握を試みました^{*2}。

さらに、本システムを一般市民や自主防災組織の方々にも積極的に利用していただくため、「第3回 災害に強いコミュニティのための市民フォーラム：想定宮城県沖地震に対する自主防災活動の交流・連携・発展(2008年3月9日、宮城県沖地震対策研究協議会^{*3}主催、地方計画部会共催)」において、町内会向け地域防災力診断コーナーを開設し、システムの紹介とデモを行っています。学会員の皆様も是非一度アクセスいただき、本システムに対するご意見・ご要望をお寄せ下さい。



わがまちの地震防災カルテ



- *1 <http://130.34.85.233/Net-SS/hyoka/what.html>
- *2 佐藤・塩田・増田・村山・柴山・源栄(2008) 仙台市における自主防災組織の地震災害対応力調査、東北地域災害科学研究会
- *3 <http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/kyogikai>

構造部会

部会長 倉田 光春

構造部会の組織並びにその運営と活動について余り理解し得ないまま構造部会を引受けたということもあり、平成19年度の研究テーマは、取り敢えず部会運営の継続性も考えて、前年度と同様に「構造技術における新しい試み(仮)」とした。前構造研究委員会は、学会員の内的なものではなく、社会に寄与することを目的として、実務構造設計者の方々とフォーラム形式を通じて重点的に活動するとしていた。結果的に1年目は、公開構造研究委員会として、2005年8月に起きた宮城県沖地震のその被害調査報告会を10月に開催し、2年目は、「耐震診断をめぐる問題」をテーマに活動する予定だったようである。本年度は、これらのことを踏まえ、後れ馳せながら2008年2月に日本建築学会東北

支部で講演会と構造部会を開催した。講演会は、「TAIPEI 101 の建設技術」と題し、青垣英夫(株式会社熊谷組建設事業本部技術推進部長)氏による世界一高い超高層ビル(台湾)の建設についてである。なお、構造部会の講演会ということで、吉松賢二(同技術部長)氏にもご出席頂きお話しを頂いた。構造部会は資料として日本建築学会東北支部研究委員会規則を配布し、議題は、2005年の名簿で構造部会会員が55名いる中で不明な点が多く(1)名簿の記載内容とその配布の是非について(2)会員の募集、入会と退会の方法について(3)構造部会の組織と今後の活動方針についてであり、特に、部会長、幹事の決め方と引き継ぎ、そして活動テーマ、活動方法(地域別活動)についてである。活動テーマと地域別活動の模索が了承され、また、構造部会会員が多くその活動主体が明確でないため、その会員と委員を区別し、委員は各組織毎に選出することに、更に、新規会員募集に併せて名簿を新しくし、「みちのくの風」開催時に、活動報告会+懇親会を行う予定とした。

環境工学部会

部会長 渡邊 浩文

前部会長・持田灯先生より部会運営を引継ぐに当たって年度当初に拡大幹事会を開催し、1)他分野との連携、2)地元のニーズ配慮、との方針継続を確認し、さらに前年度より実施している支部研究補助費「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を通じて、系統的な部会活動を行っていくこととした。

具体的には部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、これまで同様の研究会・見学会等の開催である。また建築士会東北支部のメーリングリストに参加し情報の相互流通を図ることで他分野との連携を徐々に深めることとした。

今年度の活動を列挙すると下記の通りである。

1.部会および勉強会の開催

- ①5/30 第1回部会および勉強会「中国のエネルギー事情；許雷先生」
- ②9/26 第2回部会および勉強会「建築気象データに関する研究動向；松本真一先生」
- ③12/21 第3回部会および勉強会「寒冷地青森県の高専の暖房設備；澤田紘次先生」
- ④2/27 第4回部会および勉強会「秋田県における照明・暖房環境の質的向上と環境負荷削減に関する研究；西川竜二先生」

2.研究会などの開催

- ①7/20 研修会「我が家のCO₂ダイエット」
- ②8/1 講演会「住宅の通風性能評価」
- ③9/11 市民向け講演会「Stop the 温暖化」
- ④9/27 第53回東北環境設備研究会「室内空気質と換気測定技術の最新動向」
- ⑤11/2 研究交流会「Analysis and Design of Urban Climate」
- ⑥12/11 公開講演会「人と水、くらしと環境」

- ⑦1/25 「東北・北海道からの固有技術の発信」
- ⑧3/22 講演会「英国における建築分野の温暖化対策と住宅の設計法」

3.見学会の開催

- ①4/13 「高齢者福祉施設：せんだんの里」
- ②6/20 「First Tower」
- ③10/10 「新エネルギーを活用した品質別電力供給システム実証研究施設」

材料部会

部会長 伊藤 憲雄

平成19年度の研究課題は、昨年度から引き続き「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」を継続テーマとして活動してきた。本テーマでは、主に大学院生を対象としたサステナビリティに関する教育ツールについて検討を行うものであり、解釈や定義など基本の部分を含めて学生にわかりやすく説明する資料としてまとめようとしたものである。今年度は、前年度にCD-ROMとしてまとめられたサステナビリティ教育用スライドの事例をもとに内容の拡充とその方法について議論を行った。

まず、第一は、主幹材料におけるサステナビリティに関連する項目の拡充を行うことが確認された。特に注意すべき点として、製造・リサイクル・廃棄量など年々更新されるデータの取扱について、随時最新の情報を更新する必要がある。この方法としては、部会委員がそれぞれ対応可能な分野における情報を部会時に持ち寄り、材料部会内で検討することでより正確な情報の共有化を図っていく。

第二は、製造・施工現場などにおいて実際に行われている取り組みについて情報を収集していくことが確認された。この意図するところは、より具体的な事例を交えた大学院教育の実施にあることから、現場見学会や講師の招聘、また可能であれば他部会との情報交換などを視野に入れて検討を行う。

第三は、サステナビリティに関連した注目される材料・工法について抽出し、情報交換を行うことが確認された。対象として木造への適用が検討されているスケルトン・インフィルや塩化ビニル材料が挙げられており、今後検討していく予定である。

最後に、今年度決定された教育ツール拡充の方向性と情報共有化の方針を元に、次年度の部会活動を行う予定である。

施工部会

部会長 最知 正芳

本部会では、例年、5回の定例会（委員会）を実施しており、そのうちの2回程度は、施工現場の見学会を併せて開催している。平成19年度においては、平成19年5月、7月、12月、および平成20年2月に定例会を実施し、12月

の定例会においては、仙台駅西口再開発ビル(大林・国土・仙建JV)の見学会を併せて開催した。

同新築工事は、都市型商業施設のショッピングフロアと業務用のオフィスフロアの複合による拠点施設として、JR仙台駅に隣接する「駅前一等地」において行なわれているものであり、竣工後は、商業とオフィスが複合する駅前のシンボル拠点として機能することが期待されているプロジェクトである。

見学時は50%程度の工事進捗状況とのことであったが、既存の新幹線高架部分と近接することから、基礎・地業工事に技術的な難しさのある工事として、大変興味深いものであった。2008年夏の竣工予定であり、100万都市の駅前に相応しい商業・業務複合ビルとして、また、新たな仙台の顔として機能し、駅前周辺空間の賑わいを醸成する核となつてゆくものと思われる。

このように、本部会恒例のイベントとして見学会が毎年実施できるのは、民間の建設会社に所属する委員が多いという、本部会の委員構成上の特色によるところが大きい。今後も大学のみならず、官公庁や建設会社の委員による情報交換や研究活動の場として、本部会が久しく機能することを期待したい。

なお、本部会のメインの活動として、年度を超えて進められている「環境にやさしい改修工法事例」の収集活動は、50例の収集目標の完遂を目指して現在も継続中であり、定例会の際には、担当委員からの報告を基に協議が進められている。まとめの作業は、次年度以降に持ち越しとなったが、今後も鋭意取り組んでゆく所存である。

建築デザイン教育部会

部会長 相羽 康郎

デザイン教育を取り巻く課題を、JABEEに限定せず幅広く議論していく方針に従い、今年度新たな試みとして拡大会議を開催した。部会委員だけでなく、広くデザイン教育機関に呼びかけて参加者を募り、外部のゲストを招聘して議論を深める場とした。

2007年9月18日、16:00~19:00、支部会議室で「FD学際研究2007—大学とまち、デザインとコミュニケーション」と題し、趣旨説明：相羽、進行：大沼幹事のもと、前半は丹羽由佳理氏（柏の葉アーバンデザインセンター・ディレクター）から「地球環境時代におけるデザイン教育」について、博士論文の成果を発表していただいた。これは全国の大学および海外大学における設計課題を分析したもので、東北地方の数大学もヒアリング等調査の対象となっていた。工学部の従来型に加えて、より広い事業構想、環境デザイン教育の新たな流れを指摘した内容であった。また特にユニークな課題は、教員個人の努力によっている現状も指摘された。続いて若松信行氏（若松六本木設計）から、東北における氏の実践事例を、発想の元となる美術作品を示すなどして解説いただいた。氏が建築家としての矜持を保持して建築家になったことと、幅広いデザイン教育との

支所だより

青森支所

支所長 千葉 和郎

2007年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

先ず、6月4日に開催いたしました幹事会にて、事業計画として『全員協議会』及び『東北建築賞受賞作品展示会』の日程等が検討されました。

例年『全員協議会』では、「親子の建築講座」の担当者、あるいは各賞受賞作品の担当者等の講演をプログラムに組み込んでおりますが、今年は、新幹事の八戸工業大学建築工学科及び大学院の陳沛山准教授に、講演を依頼いたしました。7月27日の協議会当日は、陳准授の講演目当ての聴講生がいつもの出席者に混じり会場は期待に満ちた空気が漂っておりました。『S・Art と現代建築技術の紹介』サブタイトル「構造体の安全性と合理性に“力学的美”を追求」と銘打った講演は、大学院のゼミでの研究成果や果ては、北京オリンピック競技会場の建築物の構造体にも言及され、興味の尽きない内容に、講演時間の短さが悔やまれることとなりました。是非、次年度の事業計画として、陳准教授による講演会の再演を企画したいと思った次第です。

10月20日、21日の両日には『東北建築賞受賞作品展示会』が八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

2008年度は、「みちのくの風 2008」が、青森開催の予定となっております。関係各位のさらなるご協力ご支援をお願いし、報告といたします。

秋田支所

支所長 安原 盛彦

平成19年度、秋田支所は組織が大きく変わった。それまで秋田県庁に支所が置かれ、県の建築住宅課長が支所長を兼務していたが、平成19年度四月から秋田県立大学・システム科学技術学部・建築環境システム学科内に置かれることとなった。

活動状況は、建築学会東北建築賞・作品賞のパネル展示を秋田県立大学・システム科学技術学部のオープンキャンパスに合わせ行った。これには第48回全国大学・高専卒業設計展示会も同時に開催され、盛況であった。

また三十五回続いているコンクールの「第36回秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール」を秋田駅に隣接するアルヴェで開催した。六校、十三点の応募があった。平成20年2月23日、県知事賞を始めとする表彰式の後、今回初めての試みであったが、展示された作品の前で審査員等によるフリーの講習会が行われた。参加した生徒達及び指導教員が生徒達の作品の評価を直に聞くことが出

ギャップなどについて議論された。大学デザイン教育が目標とするのは、幅広いデザインの素養に基づく価値のある発想と実践に向けてのコミュニケーション能力の育成にあるとしても、職能として、建築家およびデザインに関わる専門家への道程が就業先に任されるだけでなく、大学教育と連携する新たな動きなども議論された。

なお、一部機能していないシステムが見出されたので、部会委員の定員や任期などについての見直しを、常議員会に諮ることとした。

東北支部災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2007年度は幸いにして東北地域で発生した地震災害・自然災害はなかったが、北陸地方で3月25日に能登半島沖地震、7月16日に新潟県中越地震が発生した。支部の災害調査連絡会としての調査活動は行わなかったが、これらの地震災害調査に参加した会員の協力で「震災技術対策展／自然災害対策技術展」宮城（11月1日）において「能登半島地震・新潟県中越沖地震の被害に学ぶ宮城県沖地震への教訓」を開催した。また、災害調査に関連して、東北大学災害制御研究センターの公開講座「ここまでわかった繰り返しおこる宮城県沖地震、震源断層・地震動・津波・被害」（10月31日）および、定例・宮城県沖地震シンポジウム（第6回）「地域の地震ハザードに調和した構造物の耐震対策の展開に向けて」（3月22日）を開催した（東北支部名義後援）。また、昨年に引き続き、災害調査連絡会の体制と防災情報共有プラットフォーム（地域の自然情報、社会情報、被害想定資料、地震動マップなどのGISデータベース）の活用について、災害調査連絡会としてのグループ登録による通常時と災害時の活用を検討した。災害発生時には地域の地震観測網連携システムより得られる即時地震動分布推定や即時被害分布推定システムとの連動により効率的な被害調査体制をとるための応急危険度判定支援システムについても検討した。

東北地域で地震災害が発生した場合には、災害調査連絡会の体制は、連絡調整幹事会の下に、初動調査WG（主査：前田匡樹）、連絡情報拠点WG（主査：佐藤健）を設置し、通常時の活動を行うとともに、災害発生時には、従来のように災害調査WG（主査：災害調査連絡会委員長）を設置するような体制にすべく、これにともなう内規の見直しについて検討した。さらに、近い将来発生が予測されている宮城県沖地震などの地震災害が発生した場合の災害調査項目として、民間企業や官庁の事業継続計画（BCP）のための基礎データとなるような調査項目の必要性について検討した。

来たことで、指導教員からいろいろな見方、考え方が聞けて非常によかったとの声があり好評であった。また利便性もあり様々な人々が生徒の作品を見学する機会となった。

岩手支所

支所長 鈴木 徹

2007年度の岩手支所の活動状況について報告します。

今年度は、例年開催されている盛岡市主催の「第31回盛岡市景観シンポジウム」が11月20日(火)開催され、当支所でも後援をしました。

今回の景観シンポジウムは、盛岡市がこれまで都市景観形成ガイドラインにより取り組んできた盛岡らしい景観形成を、景観法の制定を踏まえ、市民が住み続けたいと感じるまちづくりを行うために、一歩踏み出したルールづくりを検討する中で行われたもので、「住み続けたいまち、盛岡の景観」をテーマとして、地域の特徴や生活環境を尊重した建築物のあり方について、基調講演やパネルディスカッションが行われたところです。

また、工業教育、特に建築教育に関する研究と、その向上改善を図ることを目的に開催される「第57回東日本建築教育研究会総会・研究協議会岩手大会」が、本年度、本県を会場に開催されることとなり、当支所としても後援をしたところです。

この大会では、東日本の工業高等学校で組織された東日本建築教育研究会の会員教員の方々が日頃の研究成果について発表する場となっております。

なお、例年、岩手県や盛岡市が主催し開催している「いわて住宅際」に併せて開催している「東北建築賞受賞作品展示会」については、支部事業として行われた「みちのくの風2007岩手」において、当該展示会が地元建築家協会との合同作品展の形で開催されたことから、今年度は支所事業としての開催を見合わせたところでございます。

今後とも支所では、建築関係のイベントに対し共催や後援を行うと共に、機会を捉えて建築学会と地域との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えております。

山形支所

支所長 井上 憲太郎

2007年度の山形支所では、2つの「親と子の建築講座」を開催しました。

10月14日(日)に、「親と子の建築講座」の最初の企画として、県立産業技術短期大学建築環境システム学科の江川先生の協力により、「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。親子6組15名が参加し、全員から建築3次元CADを操作し、小住宅をパソコン上で完成させました。その住宅のパースとウォークスルーアニメーションを見たときの参加者からの感想では、本講座の「建築をデザインする楽しさの体験」という目的を十分に達成したと思っております。

10月28日(日)には、子供たちに地域に残っている古い建物やその価値に興味を感じてもらうことを目的として「やまがた歴史たてもめぐり」を開催しました。6回目となる今年度は、親子2家族を含め9名の参加がありました。今回は、「山形歴史たてもめぐりの研究会」の協力により、市内の洋館・史跡「なかたち石」と「ヤマガタ蔵プロジェクト」により利活用された土蔵を見学対象としました。山形市内では昨今街路事業の進展に伴い、いくつかの昭和初期の建築物が除却されております。まだまだ市内には古い建築物が残されております。これらの歴史的な建築物の存在と価値を認識し、それらの保存・活用に対する関心を持ってもらう契機となったと思っております。

福島支所

支所長 佐々木 孝男

今年度の福島支所は、「建築を知る環境講座」及び「第27回東北建築賞作品展示会」を中心に活動してまいりました。

「建築を知る環境講座」は、昨年11月に福島市の県立美術館において講演会を開催し、120名の参加者で盛況のうちに終えることができました。

講座では、日本建築学会賞を受賞された古谷誠章氏にお越しいただき、受賞作品の「茅野市民館」の設計プロセスを通して、「都市の広場をつくる」と題し講演いただきました。敷地単位では「新築」の建物を周辺環境も含めた広範な視点から「改修」ととらえ、新しいものと古いものが相乗効果を生み出せるようなまち並みとすることや、ワークショップの例を紹介いただきながら、設計の意図を建物ができるまでに使い手に十分に知らせることの意義をお話いただきました。講演後の懇親会を含め、古谷氏の思いは参加者に十分に伝わったものと確信するとともに、今後の建築プロセスを考えるうえでひとつの手がかりになってくれることを切に願います。

また、「第27回東北建築賞受賞作品展示会」は、郡山駅前ビックアイにおいて「日本大学工学部建築学科卒業設計展」、「日本建築家協会作品展」との同時開催といたしました。学生の夢のある作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで多くの建築作品が並び、建築関係者はもとより、一般市民にとっても、見応えのある展示会になったのではないかと感じております。

今後とも地域の学校や関係団体との連携・協同を行いながら、さらなる事業の充実心がけてまいりたいと思っております。

常議員会から

常議員 佐藤 健

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部監事(2名)、及び支所長（青森支所、秋田支所、岩手支所、山形支所、福島支所）で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会（支部長と総務・企画担当常議員）で議事内容などを検討している。また、9月に支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施している。

常議員会は、原則として毎月行われるが、議案が少ない場合には、ネットワーク会議としている。なお、10月常議員会からの会議形態がインターネットを利用したWeb会議となった。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。また、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す。

【2006年4月ネットワーク会議】 次期常議員選挙開票報告と役割分担、みちのくの風 2007 岩手の進捗状況、2007年度予算案、2007年度総会、理事会報告、事務局会議報告、支部年報の編集状況、2006年度決算報告、2007年度文部科学省科学研究補助費の採択結果報告、本部研究補助費、秋田支所移転

【5月】 みちのくの風 2007 岩手の進捗状況、理事会報告、第28回東北建築賞応募、秋田支所移転、2007年度総会

【6月】 年間行事予定及び役割分担、理事会への支部長代行者、みちのくの風 2007 岩手、理事会報告、作品選集 2008 応募結果の報告、4月・5月会計報告

【7月ネットワーク会議】 みちのくの風 2008 会場、日本建築学会賞（論文）への推薦、北海道支部共同主催見学会、支所長会議の日程、日本建築学会設計競技支部審査結果、作品選集 2008 支部審査会の審査経過

【9月Web会議】 選挙管理委員会の設置、特色ある支部活動の企画提出、2008年度日本建築学会設計競技課題、2008年度日本建築学会文化賞候補の推薦、2008年度日本建築学会大賞業績候補の推薦、2008年度大会研究集会テーマ募集、みちのくの風 2008 青森、産休・育休に伴う代替事務員、Web会議導入に伴う会議開催予定の変更、東北支部基金規定の制定、建築文化週間事業、作品選集 2008 支部推薦報告、第28回東北建築賞応募報告及び第18回東北建築作品発表会、第9期代議員及び支部役員の選挙日程、東北支部 60周年記念事業、6月・7月会計報告

【10月Web会議】 東北建築賞要項、みちのくの風 2008 青森、2008年度総会、東北支部 60周年略史発刊、建築を知る環境講座、第18回東北建築作品発表会の報告、2007年度設計競技全国審査報告、特色ある支部活動結果報告、8月会

計報告

【11月Web会議】 東北支部研究報告会募集要項、作品選集 2009 選考委員の選定、みちのくの風 2008 青森、東北支部 60周年記念事業、東北建築賞募集要項改定、「東北の建築を描く展 2008」への後援名義使用依頼、代議員・常議員候補者届出状況、作品選集 2008 掲載作品報告、平成 20 年度科研費申請状況、設計競技 2008 選考委員の選出、9月会計報告

【1月Web会議】 研究部会費等の取り扱い、2008年度総会、支部年報第28号発刊計画、みちのくの風 2008 青森、東北建築賞募集要項改定、東北支部 60周年記念事業、2008年度建築文化事業、「第3回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム」への共催名義使用依頼、理事会報告、小規模建築物基礎設計指針講習会、作品選集 2009 委員、次期代議員、常議員候補者届出の報告、日本建築学会東北支部振興会による援助、2008年度特色ある支部活動企画の採択結果報告、日本建築学会大賞業績候補の推薦、10月・11月・12月会計報告

【2月Web会議】 みちのくの風 2008 青森の進捗状況、みちのくの風における建築デザイン部会からの起案、みちのくの風における塩ビ工業・環境協会の資料展示、2008年度総会の進捗状況、東北建築賞募集要項・内規改定、東北支部 60周年記念事業、建築デザイン教育部会の定員及び任期、東北建築賞（作品賞・研究奨励賞）審査結果報告、2008年度建築文化事業

【3月Web会議】 2008年度予算案、みちのくの風 2008 青森の進捗状況、2008年度支部総会と付随行事、東北建築賞、2008年度講習会実施、東北支部 60周年記念略史発行、2008年度建築文化事業、「定例宮城県沖地震シンポジウム（第6回）」への後援名義使用依頼、理事会報告、支部長会議報告、小規模建築物基礎設計指針講習会報告、東北建築賞の選考結果報告、作品選集 2009 選考委員長交代、全国大学・高専卒業設計展の日程、第36回秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール報告、1月・2月会計報告

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役 割	2007 年度 (2007 年 6 月～2008 年 5 月)	2008 年度 (2008 年 6 月～2009 年 5 月)
支部長	倉田 光春(日本大)	吉野 博(東北大)
総務企画	土方 吉雄 (日本大) 大沼 正昭(東北工大) 佐藤 健(東北大) 陳 沛山(八戸工大)	佐藤 健(東北大) 陳 沛山(八戸工大) 松井 壽則 (日本大) 渡邊 浩文 (東北工大)
社会文化	長谷川兼一(秋田県立大) 氏家清一((株)氏家建築設計事務所) 若松信行(アトリエノルド)	若松信行(アトリエノルド) 田村宏治 (榊みちのく設計) 西田哲也 (秋田県立大)
学術教育	西脇智哉 (山形大) 市岡綾子(日本大) 鈴木博司(東北工大)	市岡綾子(日本大) 鈴木博司(東北工大) 増田豊文 (東北文化学園大)
会計会員	小澤成昭 (JR 東日本) 関口美恵子(仙台市)	関口美恵子(仙台市) 我妻孝幸 (JR 東日本)
図書情報	五十嵐太郎 (東北大) 竹内昌義(芸工大)	竹内昌義(芸工大) 本江正茂 (東北大)
企画運営		
事務局	大場美香	大場美香

研究部会長

研究部会	部会長
構造	検討中
材料	伊藤憲雄 (宮城工業高等専門学校教授)
建築計画	石井 敏 (東北工業大学准教授)
地方計画	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠	西野敏信 (東北工業大学教授)
施工	笠松 富二夫 (宮城工業高等専門学校助教授)
環境工学	渡邊浩文 (東北工業大学准教授)
デザイン教育	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2008 年 4 月 1 日現在)

名誉会員	3 名	準会員	17 名
終身会員	52 名	賛助会員	7 法人
正会員 (個人)	1198 名		
正会員 (法人)	44 法人		

東北支部監事

2007 年 6 月～2008 年 5 月

八巻正信 (JR 東日本)
横山直樹 (仙台市)

2008 年 6 月～2009 年 5 月

横山直樹 (仙台市)
小澤成昭 (JR 東日本)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2007 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	武 修司(仙台市都市整備局公共建築部営繕課長) 高橋 恒夫(東北工業大学教授) 出村 克宣(日本大学教授) 源栄 正人(東北大学教授)
2008 年 4 月 ～ 2010 年 3 月	狩野勝重 (日本大学教授) 石坂公一 (東北大学教授) 渡邊英明 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社総務部 企画室担当部長) 磯部 正 (国土交通省東北地方整備局営繕部長)

支所長

支 所	支所長
青森支所	盛 勝昭 (株)盛興業社 代表取締役)
秋田支所	安原 盛彦 (秋田県立大学建築環境システム学科 教授)
岩手支所	鈴木 徹 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	加藤 昭 (山形県土木部建築住宅課課長)
福島支所	佐々木孝男 (福島県土木部建築総室建築住宅課 課長)

2007 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2006 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2007 年度事業計画・予算案	2007 年 5 月 12 日 情報産業プラザ・セミナー ホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 若井正一、小山 剛、月館敏栄、山田大彦 (新任) 武 修司、高橋恒夫、出村克宣、源栄正人	2006 年 4 月～2008 年 3 月 2007 年 4 月～2009 年 3 月
支部長改選	(留任) 倉田光春	2006 年 6 月～2008 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次 山畑信博、横山直樹 (留任) 五十嵐太郎、氏家清一、大沼正昭、小澤成昭、西脇智哉、 長谷川兼一、土方吉雄 (新任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行	2005 年 6 月～2007 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月 2007 年 6 月～2009 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	八巻正信、横山直樹	2007 年 6 月～2008 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 倉田光春 構造技術における新しい試み 材 料 : 伊藤憲雄 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 西野敏信 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡辺浩文 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	Web-GIS 等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化 地方計画部会 (研究責任者 増田 聡) 東北地方の建築・都市の総合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 環境工学部会 (研究責任者 内海康雄)	2007 年 4 月～2008 年 3 月 2007 年 4 月～2008 年 3 月
支部研究報告会	2007 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 70 号計画系・構造系刊行 発表題目 119 題	2007 年 6 月 9 日～10 日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 山形支所、福島支所で開催</p> <p>2) 第18回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）</p> <p>3) 第28回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2007 岩手 ・支部研究報告会と招待講演会 ・パネルディスカッション 「地域固有の文化、歴史を生かしたまちづくり」 ・第27回東北建築賞授賞式 ・第27回東北建築賞受賞作品展示会並びに JIA 岩手作品展</p> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ① 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」 ② 山形会場「やまがた歴史建物めぐり」</p> <p>2) 第27回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、由利本荘市、郡山市</p>	<p>2007年10月 2007年9月福祉プラザ 2007年10月～2008年1月</p> <p>2007年6月9日～10日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」</p> <p>2007年10月 2007年10月</p> <p>2007年6月～2008年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第27回東北建築賞作品賞 作品賞2点、作品奨励賞2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 法人2社、個人5名</p>	<p>2007年6月9日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」</p> <p>2007年5月12日 情報産業プラザ・セミナーホール</p>
支所活動	<p>青森支所 ・全員協議会 ・第27回東北建築賞作品展示会：八戸市</p> <p>秋田支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第36回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</p> <p>岩手支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：盛岡市</p> <p>山形支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「やまがた歴史建物めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>福島支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築を知る環境講座</p>	<p>2007年7月 2007年10月</p> <p>2007年7月 2008年2月</p> <p>2007年6月</p> <p>2007年11月 2007年10月 2007年10月</p> <p>2008年2月 2007年11月</p>
刊行活動	<p>支部年報第27号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第70号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第18号）発行</p>	<p>2007年5月12日 2007年6月9日 2007年9月29日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会開催	2008年2月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、由利本荘市	2007年6月～2007年10月
審査会	2007年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：人口減少時代のマイタウンの再生 日本建築学会「作品選集2008」	2007年7月 2007年6月～9月

2008 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2007 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2008 年度事業計画・予算案	2008 年 5 月 10 日 情報産業プラザ・セミナー ホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 武 修司、高橋恒夫、出村克宣、源栄正人 (新任) 狩野勝重、石坂公一、渡邊英明、磯部 正	2007 年 4 月～2009 年 3 月 2008 年 4 月～2010 年 3 月
支部長改選	(新任) 吉野 博	2008 年 6 月～2010 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 五十嵐太郎、氏家清一、大沼正昭、小澤成昭、西脇智哉、 長谷川兼一、土方吉雄 (留任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行 (新任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文	2006 年 6 月～2008 年 5 月 2007 年 6 月～2009 年 5 月 2008 年 6 月～2010 年 5 月
企画運営委員		
支部 監 事	横山直樹、小澤成昭	2008 年 6 月～2009 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 倉田光春 構造技術における新しい試み 材 料 : 伊藤憲雄 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 西野敏信 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡辺浩文 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 笠松富二夫 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	東北におけるデザイン教育の実践と社会還元について —大学デザイン教育の公開講評会を通して— 建築デザイン教育部会 (研究代表者 相羽 康郎)	2008 年 4 月～2009 年 3 月
支部研究報告会	2008 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 71 号計画系・構造系刊行 発表題目 139 題	2008 年 6 月 7 日～8 日 弘前文化会館

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 福島支所で開催予定</p> <p>2) 第19回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）</p> <p>3) 第29回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2008 青森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・会長基調講演 「空間と構造—私にとっての構造デザイン」 ・第28回東北建築賞授賞式 ・第28回東北建築賞受賞作品展示会並びに JIA 青森作品展 ・見学会 <p>5) 東北支部60周年記念事業</p> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ・福島会場「建築を知る環境講座」</p> <p>2) 第28回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、弘前市、由利本荘市、郡山市</p>	<p>2008年10月 2008年9月 2008年10月～2009年1月 2008年6月7日～8日 弘前文化会館</p> <p>2008年10月</p> <p>2008年6月～2009年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第28回東北建築賞作品賞 作品賞4点、作品奨励賞1点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人6名</p>	<p>2008年6月7日 弘前文化会館</p> <p>2008年5月10日 情報産業プラザ・セミナーホール</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第28回東北建築賞作品展示会：弘前市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第28回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第37回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第28回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第28回東北建築賞作品展示会：山形市 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第28回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築を知る環境講座 	<p>2008年7月 2008年6月</p> <p>2008年7月 2009年2月</p> <p>2008年9月</p> <p>2008年11月</p> <p>2009年2月 2008年10月</p>
刊行活動	<p>支部年報第28号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第71号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第19号）発行</p> <p>東北支部60周年略史発刊</p>	<p>2008年5月10日 2008年6月7日 2008年9月27日 2008年11月予定</p>

〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会開催	2009年3月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2008年7月～2008年10月
審査会	2008年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：記憶の器 日本建築学会「作品選集2009」	2008年7月 2008年6月～9月

法人・賛助会員

阿部建設(株)
株大林組
株関・空間設計
株奥村組
鹿島建設(株)
株久米設計
株熊谷組
五洋建設(株)
清水建設(株)
仙建工業(株)
大成建設(株)
株竹中工務店
鉄建建設(株)
戸田建設(株)
株ユアテック
西松建設(株)
りんかい日産建設(株)
株間組
株フジタ
堀江工業(株)
前田建設工業(株)
升川建設(株)
株ピーエス三菱東北支店
株三菱地所設計
株山下設計
株梓設計
株伊藤喜三郎建築研究所
東日本興業(株)
北洲
東北ポール(株)
株昂設計
株みちのく設計
東北ドック鉄工(株)
千田総兵衛建築事務所
株都市構造研究センター
株東北設計計画研究所

(株)本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
(株)清水公夫研究所
旭化成建材(株)
東日本旅客鉄道(株)
東北電力(株)
(株)NTT ファシリティーズ
(社)日本電設工業協会
有限責任中間法人東北空気調和衛生工事業協会
東北文化学園専門学校
日刊建設産業新聞社
(株)志賀設計
(株)田村設計室
(株)佐藤総合計画
東北文化学園大学
元旦ビューティー工業(株)

東北支部年報

2008年5月10日発行 第28号

編集責任者 五十嵐太郎